政府米応札に活用

シャリー 新型穀粒判別器を導入

2年産米を画像検査で応札

令和二年産政府備蓄米買入入札で農産物検査官の目視検査に因らずとも新型穀粒判別器で測定したデータでの買入れが認められたことから大規模稲作生産者の間でも新型穀粒判別器に関心が高まっており、生産者の中には政府備蓄米応札資格を取得し、新型穀粒判別器を使って二年産米の品位画像データを取り、そのコメを政府備蓄米として売り渡すべく計画しているところもある。㈲シャリー（茨城県猿島郡　鈴木一男社長）は三月十六日、㈱ケット科学研究所の新型穀粒判別器RN-700を導入して、この機器を使用して画像解析した二年産米を政府備蓄米として応札することにしているほか、玄米の仕入れから精米の販売にも活かそうとしている。

生産者も関心高める

目視に因らない検査

農水省政策統括官が指定した政府備蓄米買入入札で使用される穀粒判別器は、㈱ケット科学研究所RN-700、㈱サタケRGQI 100A、静岡製機株式会社ES-5の三社のもので、買入要件の規格（品位）として設定しているのは、白未熟粒七・〇%及び被害粒（死米、着色粒、胴割粒及び砕粒の合計）四・〇%の混入割合の最高限度となっており、最低十トから応札できる。農産物検査官の目視により一、二等に格付けされる品位基準と比較すると緩い基準であり、未検査米の二等格クラスでもクリアー出来る基準値になっている。

大規模稲作生産者にとって政府備蓄米に応札することは、作付け前に確実に二年産米の売り先を確定出来ることに最大のメリットがある。また、これまでの入札で落札価格が一俵一万三千八百八十円（税別）まで落ちていることが伝わっている。現在の需給状況から推すと二年産米の市中取引価格が下落する恐れがあるため、この価格で落札出来ればヘッジ（保険つなぎ）機能としても有効。

㈲シャリーがケット科学研究所の新型穀粒判別器RN-700の導入を決めたのも政府備蓄米に応札することが大きな要因だが、活用方法はそれだけではない。同社は自社で約七十㌶の水田を耕作しているが、販売面では自社精米工場を有し、外食企業等に販売しており、必要な原料米を確保するため周辺農家からも買入れている。その際、自社の検査官が目視で検査して等級格付けしたが、二年産からは新型穀粒判別器を活用して玄米の品位データを測定し保存、乳白米や胴割れが多い玄米があった場合、その原因を突き止め品位を上げるという営農にも活かす。また、新型穀粒判別器は精米品位データも解析出来るため自社の精米工場で精米したコメの品位をチェック、そのデータを精米品位向上に活かすと同時に外食企業等にも示し、取引の信頼性アップにもつながるため、コメの仕入れから販売の両面で新型穀粒判別器を活用できると言うメリットがある。

精米販売にも活用

データで実需に信頼

㈲シャリーの精米工場に隣接する事務所に運ばれて来たケット社の穀粒判別器RN-700は、電源を入れ稼働できる状態にされ、ケット社東京本社営業部の廣瀬佐紀子エリアリーダーが測定の手順や注意事項を説明しながら、実際に玄米と精米の画像データ測定が行われた。

玄米は、付属の計量スプーンで約二十㌘を掬い、穀粒判別器の下部にある試料トレイを取り出して、トレイを左右に振って均等に広げる。計量スプーン一杯で掬える玄米は約千百粒だが、判別器の測定範囲は八百粒から千二百粒なので玄米の大きさに合わせて調整する。試料トレイに乗せた段階で米粒が重らないように均等に広がるようにすることがポイント。トレイを機器に差し込む際も試料が偏らないようにゆっくり差し込む。差し込み終えると自動で計測が始まり一分ほどで判別が終わり、機器側面から整粒、白未熟、砕米、胴割、死米、着色の割合が記されたデータがプリントアウトされる。もっと詳しく品位を確認した場合は、機器の全面にある操作盤で「詳細」に移動して計測すると青米、腹白、背白、心白、奇形、茶米、発芽などの計測データも出て来る。精米は精米モードに切り替えて同様の手順で測定すると正常粒割合や粉状質粒割合などの測定データが出ている。測定はパソコンに接続すればパソコン上からも操作が可能。

測定が終了したら試料トレイから試料回収筒に簡単に回収できる。試料トレイに糠等が溜まったら付属のブラシで清掃、このブラシは静電気除去機能が付いているためブラッシングすることで静電気も除去できる。機器本体に米粒が残った場合は、付属の掃除用ノズルを機器に装着、市販の掃除機で吸い込むようにする。逆に中に送風することはレンズや反射鏡を汚すことになりかねないためそれはしないようにするなどの注意事項があった。

操作説明を受ける
鈴木哲行専務（右）

精米品位データを確認